

伝統のない北海道に日本画の定着は遅く、アイヌ風俗を描いた幾人かの後は、優れた指導者の来道を持たなければなりません。やがて明治末に、北條玉洞が函館で画塾を開き、東京美術学校出身の菅原翠洲が札幌師範学校に赴任し、多くの美術教員や画家を育成しています。

大正一四年「道展」が結成され、日本画部の創立会員に岩田華谷、菅原翠洲、白 青山、山内弥一郎、岡崎南田らが名を連ねています。道展の誕生は、道内各地の交流だけでなく、「蒼玄社」「北海道美術家連盟」のような、美校出身者や在京美術家たち―山口蓬春、久本春雄、筆谷等観、平沢貞通、田中針水らによる、道展と相対する動きを生み、道画壇に大きな刺激をもたらしました。

岩田華谷が北海道を去り岡崎南田が他界するなど試練を迎えた戦争の時代、本間莞彩、堀井象碩、高木黄史らは、道展日本画部を母体とした新たなグループ「素月社」（昭和一一）、「九潮会」（昭和一二）を結成します。続いて戦後の混乱期にもかかわらず、山内弥一郎、本間莞彩、堀井象碩、川井霊祥、炭光任、小浜亀角、北山晃文、高木黄史、西條正一、岩橋英遠らにより、「北海道日本画協会」（昭和二二）が誕生しました。

また、昭和二四年に発足した西條正一の研究団体「青盤社」も戦後北海道の日本画を再興するため尽力し、北海道に生まれ、この地で日本画が表現できることを自ら実証する画家たちが数多く現れました。

本展は、札幌の個人蒐集家による「小林コレクション」を中心に、北海道美術の草創期をリードし、日本画の分野で貢献した先達と、日本画の可能性を模索し、地道に北海道での活動を積み上げ、自立していった日本画家たちの作品を展覧いたします。

■コーナー展示 筆谷等観の画業 第一期

小樽の商家に生まれ、小樽出身の画家として最も早く活躍した院展同人、筆谷等観（一八七五〜一九五〇）の作品をご紹介します。



神保明世 三千院の秋



佐藤栄次郎 乙姫



岡崎南田 老松風韻

同時開催

本間聖丈展—小樽日本画協会とともに

本間聖丈（本名一郎）は、青竜社社子の西條正一に師事し、日本画・水墨画を学びました。1957年道展初入選以来、会員として長く指導的な立場を担った画家です。地元小樽では、市展のみならず小樽日本画協会を盛り上げ、多くの日本画・水墨画愛好者を育てました。特別展「北海道の日本画家たち」とあわせて、小樽の重要な日本画家、本間聖丈の画業を、ゆかりの深い小樽日本画協会の画家たちの作品とともに、展覧いたします。

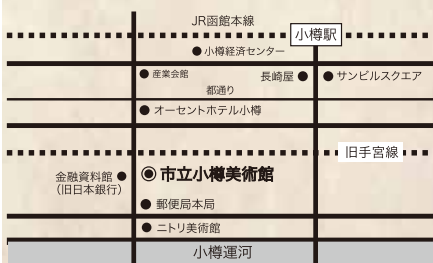
会期：4月28日・29日・5月1日・2日（4日間）  
会場：1階市民ギャラリー（多目的展示室）  
観覧料：無料

出品作家 日本画：千葉世世・馬場静子・小梁川貴子・工藤葉子・上田入子  
水墨画：一島嘉明・大上千恵子・直江順一郎

※佐藤栄次郎の作品につきましては、著作権者の連絡先が不明のため、必要な手続きがとれておりません。情報をお持ちの方は、市立小樽美術館までご連絡下さいますようお願いいたします。

市立小樽美術館 otaru city museum of art

〒047-0031 小樽市色内1-9-5  
Tel:0134-34-0035 Fax:0134-32-2388



岩橋英遠 鶴



菅原翠洲 李太白観瀑



西條正一 五大堂



筆谷等観 羅浮仙